

指導教諭 [REDACTED]

指導者 [REDACTED]

1. 日時・教室：平成 29 年 9 月 21 日（木）3 時間目（10：40～11：30）

2. 担当学年組：3 年 2 組

3. 単元：第 2 章 私たちの生活と政治 第 1 編 個人の尊重と日本国憲法

4. 教材：教科書『中学社会 公民的分野』（日本文教出版）

5. 単元設定の理由

- (1) 単元観：地球に住んでいるものとして基本的人権を尊重し合うのは当然のことである。この単元はその人権を学ぶものである。この単元を学ぶことによって、これからの国際社会をきちんと生きていく基本的なものを学んでいく。
- (2) 生徒観：授業の始めは、少し教室で騒いでしまうことがあるが、あいさつを行うと静かになり、授業を受ける態度が変わっていく。こちらから発問や問いかけをすると、積極的に発言してくる生徒が多いが時折話が脱線してしまうことがあるので、きちんとした話の切り替えが重要になってくる。また、障がいを持っている生徒や、外国にルーツを持つ生徒が在籍しているので、配慮も必要である。
- (3) 指導観：人権に関する、様々な過去の事例や資料を用いて、実際自分だったらどう感じるか、どう思うかなどロールプレイングをしながら学んでいき、自分の気持ち、また、相手の気持ちについても理解させる。また言葉だけではなく図やグラフ、絵画、SNS を模したものを資料として、スライドで提示していくことにより、視覚的に理解が深まるようにする。

6. 単元の目標

- ① 【関心・意欲・態度】人が生きて行く上で基本的人権の尊重がなぜ必要なのか、憲法の役割について関心を持ち、意欲的態度で学習に取り組む。
- ② 【思考・判断・表現】基本的人権と公共の福祉の関係について自分で考え、自分の言葉で表現できる。
- ③ 【技能】資料などを通じてどこに基本的人権の侵害があるか判断することができる。
- ④ 【知識・理解】日本国憲法、基本的人権の尊重についてきちんとした知識を持つ。

7. 単元の学習計画（15 時間）

- ① 私たちにとっての政治と民主主義
- ② 法に基づく政治と憲法
- ③ 日本国憲法の制定と三つの基本原則
- ④ 日本国憲法と国民権
- ⑤ 人権思想のあゆみと日本国憲法
- ⑥ 自由に生きる権利

- ⑦ 等しく生きる権利
- ⑧ 差別のない社会へ
- ⑨ 人間らしい生活を営む権利
- ⑩ 人権の保障を実現するための権利
- ⑪ 社会の変化と人権保障……………本時
- ⑫ 広がる人権保障
- ⑬ 公共の福祉と国民の義務
- ⑭ 日本国憲法の平和主義
- ⑮ 日米安全保障条約と日本の国際貢献

8. 本時の目標

- ① 【関心・意欲・態度】新しい人権について関心を持ち意欲的に学習に取り組む。
- ② 【思考・判断・表現】今の社会がどのように変化し、どのような人権が必要になっているのかを考え、自分の言葉で表現する。
- ③ 【技能】資料、事例をみてどのような人権が侵害されているのか判断することができる。
- ④ 【知識・理解】社会が目まぐるしく変化していること、それにとまってどのような人権が必要になっているのか知識をもち、それらについて理解する。

9. 本時の準備物・資料等

- ・『中学社会 公民的分野』（日本文教出版）
- ・授業振り返りプリント（生徒分）
- ・SNS を模したインターネットの問題の資料（画用紙）
- ・授業で使用するスライドショー

10. 本時の学習展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 7 分	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・前回の振り返りシートの配布・書き込む ・SNS の模式図を黒板に貼り付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに答えを書いていく。 ・ノート、ファイル、教科書を机の上に用意する。 発問「黒板に貼ってある例はどのような問題点を侵害しているか？」 ・黒板に提示した例はどのような人権を侵害しているか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を受ける態度ができているか確認 ・授業を始める際に班の形にする。 ・班に一枚ワークシートを配る。
展開 40 分	<p>どうして新しい人権が必要なのか考えよう！</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○日本国憲法が作られた時代と現代ではどんな違いがあるか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 発問「この二つの写真を見てどのような違いが見られるだろう？」 「また、日本国憲法が想起された 	<ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長期の町の様子と、今の町の様子を比較した写真を見せ、どのような違いがあるのか視覚的に理解させる。

<ul style="list-style-type: none"> 新しい人権について 幸福追求権（13条）について 	<p>時代にはなくて私たちの生きる時代にあるものを考えてみよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> 板書をノートに書かせる。 憲法に明記されていない権利が必要になっていることを理解する。 憲法に明記されていない権利も幸福追求権によって保障されていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 班活動ができているか机間巡視を行う。 きちんとノートを書いているか机間巡視を行う。 班で話し合わせる。 いくつかの班に発表させる。 きちんとノートを書いているか机間巡視を行う。
<p>○知る権利</p> <ul style="list-style-type: none"> 知る権利について 情報公開制度の存在について マスメディアの役割について 	<p>○知る権利</p> <ul style="list-style-type: none"> 板書をノートに書き写す <p>発問「政治がどのように行われているか判断するには何が必要か？」</p> <ul style="list-style-type: none"> 国民に対して説明を行う場として情報公開制度があることを理解する。 マスメディアが情報を国民に伝える役割を大きく担っていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 政治がどのように行われているか判断するためには何が必要か考えさせる。 ワークシートに書かせる。
<p>○プライバシーの権利</p> <ul style="list-style-type: none"> プライバシーの権利がなぜ必要になってきたのか考える。 個人情報保護制度について 	<p>発問「どうしてプライバシーの権利が必要になってきたのか考えよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> プライバシーの権利が知る権利に対抗して生まれてきたものであり、情報が素早く伝達されるようになってきた現代になって登場してきたものであることを理解する。 <p>発問「もし自分が、例で挙げたような立場になったらどうする？」</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人情報を守るために企業や国などに自分の情報を開示・変更ができる制度があることを理解する。 個人情報保護法などの存在にも理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに話し合わせ、発表させる。 班活動ができているか机間巡視を行う。 いくつかの班に発表させる。 ノートを書いているか机間巡視を行う。

<p>○自己決定権</p> <p>自己決定権とはどのようなものか</p> <p>インフォームドコンセント、尊厳死について</p>	<p>発問「もし、自分が治らない病気に罹ったときに尊厳死を選ぶかどうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> インフォームドコンセントとは、病気の治療に関して、様々な医療機関に治療法を聞くことができるということを理解する。 尊厳死について説明したのち、自分ならどうするか考えさせる。 	
<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の内容の整理 振り返りプリント配布、記入させる。 次回の授業内容を確認 	<ul style="list-style-type: none"> わからないところがあれば、班の者同士で教えあいさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視を行い、きちんとプリントをしているか確認させる。

11. 本時の評価規準

- ① 新しい人権について関心をもち意欲的に学習に取り組めたか。
- ② 今の社会がどのように変化し、どのような人権が必要になっているのか考え、自分の言葉で表現できる。
- ③ 資料、事例をみてどのような人権を侵害されているか判断できる。
- ④ 社会が目まぐるしく変化していること、それにとまってどのような人権が必要になっているか知識をもち、理解する。

12. ご講評